

第 10 回ごみ有料化等検討委員会  
会議録

平成 23 年 12 月 22 日(木) 午後 1 時 00 分～  
市役所 4 階 大会議室

【出席委員】 浅利委員長、三木副委員長、藤堂委員、小林委員、藤尾委員、安原委員、高森委員、石川委員、相川委員、公門委員、奥田委員、横井委員、松本委員

【欠席委員】 中西委員、樽井委員、筒井委員、山田委員

【事務局】 森住専門委員  
小紫副市長、奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境事業課長補佐、大窪事業係長、竹本管理係長、鳴川管理係員  
地域計画建築研究所 小泉

【配布資料】

- 資料 ごみ半減トライアル計画イメージ
- 資料 ごみ半減に向けた家庭ごみ減量施策の全市展開と地区単位の家庭ごみ減量トライアル計画イメージ

1 開 会

傍聴者確認 5 名

事務局:本日の会議の会議録署名委員については、高森委員と相川委員をお願いいたします。

副委員長:前回に引き続いて今回は次第の案件 1 のごみ半減プラン達成のためのワークショップつとということで作業をしていきます。今からワークショップ始めたいと思います。

専門委員:それでは前回何をしたのか簡単な説明をします。前回はワークショップ方式で話し合いをしまして有料化無しでごみを半減にしようと思った時の課題を出してもらった。紙ごみを減らそうと目標は 9 割で、この目標を達成しようと思ったらどうい課題があるのか皆さんが出して、委員長が整理をした。気になることは、委員は関心があるけれども関心のない市民が結構いる。だいたい分別という意義は分かるけど邪魔くさいと思われる方が非常に多い。邪魔くさいという風に思っ

うからなかなか分別ない人が多いということが分かってきた。ごみを考える場合にいろんな視点がありますけどいろんな視点から考えないといけないと思う。葉書とかダイレクトメールが収集に入ってきますので、個人情報の問題も考えられる。家にチラシがいっぱい入ってくるので規制できないのかというような問題も出てきます。そのような問題を解決するためにどうしたらいいのかを今日は皆さんに話し合ってもらおうのです。市がやることを今日は議論するのではなくて皆さん方が自分の地区で紙ごみの回収率をアップしようと思ったらどういう課題があって、その課題を克服するためにどうしたらいいか、そのアイデアが前回は残念ながら出てこなかった。自分の地域の紙ごみを今よりもアップするためにどういう課題があるのかということとそれを解決するために各自が自分の住んでいる地域でどういうことが出来るのか。この2つに絞って今日は話し合っていたきたいと思う。一時間くらい議論していただいて、今日のワークショップは終わりにしたいと思っていますので宜しくお願いします。

#### 紙ゴミについてワークショップ

委員長：発表いたします。行政に望むことよりも市民がやる事の方が多かったというのが凄く印象的です。みんなもっとやったほうがいいと思っているのは情報発信をいろんな形で、具体的にはホームページとか宣伝カー、パッカー車、リヤカーでみんな乗って回ろうとかもあり、イラスト付のマニュアルみたいなものでごみの辞書みたいなものがあつた方がいいもありましたし、もうひとつ重要なものが地域で情報発信する人材を確保するようにしたほうがいいのと住民パワーというのがキーワードで、住民パワー育成の為の講習会をし、自治会での紙ごみ回収を強化する担当者を選任すべきという発言もありました。また、回収した結果を地域単位で見える化した方がいい、そうすることで競争意識みたいなものも出てくるとありました。あと、教育関係でも子どもたち、婦人会等々もつとごみの勉強会を自主的に立ち上げていった方がいいのではないかともありましたし、行政にももっと頑張ってもらいたいという意味では生産者が要らない物もたくさん作っている部分もあるので売り手とか作り手とかとちゃんと協力して生駒モデルとかそういうものも出来ないのかという意見もありました。一旦ワークショップは終了しますが、ちゃんと記録をして今後のちゃんと計画して出来る事出来ない事を優先順位付けて我々の中でPDCAを回していくという方向で思う。ありがとうございました。

委員：自治連合会からお願いがあるのですが、生駒市自治連合会では今年ミックスペーパーの集団資源回収に取り組んで、少しでも回収率アップになればということで各地区にて色々やっていただいております。1月末に自治連合会の全体集会でその報

告もしたいという予定はしているのだが意見があれば環境事業課の方で整理していただいて自治連合会の方に情報いただければその時に各自治会長さんにどのような形にしても配布することはできる。

委員長：今日は資料としては後A4の一枚とA3の横の一枚あると思います。私の方から口頭で方向性のご提案をさせていただきます。私たちの委員会のごみ半減に向けた有料化のあり方というのを議論させてきたが、ごみ半減というのがもの凄く高いハードルですので、有料化というのは非常に有効な手段だと認識しながらも今このまますぐに有料化を進めることが得策かどうかということにはちょっと疑問が残る。ごみ減量化を進めるには少し体制が弱いので、勿論行政の方に頑張ってもらいたいといけませんが、住民のパワーを引き出すような形の生駒モデルを作らないといけない。まず来年以降できればこの委員会の皆様にそのまま残っていただく形でこのごみ半減を推進する市民と共同のごみ半減推進市民会議というものを立ち上げて、それは市民・行政、私たちも入れていただけるのなら私たち事業者、そういった人たちがホントに半減するためのことをフラットに話し合って、話し合うだけでなくちゃんと実行する。組織を作りたいと思う。他に実現した規模の都市がないのでやってみないと無理だろうと考え、モデル地区を何箇所か決めてそこでやってみようということをしてみたいと思う。そこでは地域のごみ半減推進会議というのを立ち上げて、それは市と推進会議を連携してやるというような形でやればいい。ごみ半減の目標年自体がタイトですので1,2年集中して頑張ってみてそれを見たらうえて有料化を改めて判断をするということを考えております。今日確認していただいてご意見をいただいてそれを受けて今の内容を含めた答申を来月案として出していただいてそれを1,2ヶ月で詰めていく。同時に市民の半減推進会議の立ち上げを始めていくと。その中では今出していただいた対策のプランを立てて実際に実行してチェックしていくというようなことを回し始めるという様な理解でおりますので宜しくお願いします。

資料のごみ半減トライアル計画イメージ及びごみ半減に向けた家庭ごみ減量施策の全市展開と地区単位の家庭ごみ減量トライアル計画イメージについて事務局から説明

委員長：ご意見あればどうぞ。今日受けたご意見を最終答申案という方向に持っていきたいと思いますので宜しくお願いします。

委員：案の方向性としてはそれでいいと思うが、今市民に向けてのごみ半減プランというのは認識はしていますけど、それは燃えるごみを半減するというプランであって、プ

プラスチック容器を分別したりミックスペーパーを変えたり剪定だの分別回収したりすることで燃えるごみが減るとアピールしないと市民の方は順序だててが分からないと思う。

委員長：皆さんの力も借りながら分かりやすく効果的に伝えていく。モデル地区で半減を実証してみることと情報発信をとにかく市民目線でやるのが肝と思っている。

委員：質問ですが、2月15日が期限というのは来年の2月15日だと思うが、公募するのは1月で公募するのか。委員の中からはかやらないということか。一般の市民に向けては何も出さないってことか。

委員長：今考えているのは、最終の答申の中で少なくともいくつかモデル地区が立ち上がるというところにはもっていきたいと思っている。その後きっちり答申もできて今後の方向性としてごみ半減推進会議というのを軸にやっていくということが決まればそこから新たに市民公募して、場合によっては自分のところがモデル地区としてやりたいということがあればそういうところにも入っていただくと。少し時間ずれていきますけど、全体としてタイトですので出来るだけ出来るところからやっていくという形で行きたいと思う。

委員：モデル地区で再来年の春上期の分と、来年の上期の分の量を比較してそれで効果を測定しますという話か。

委員長：出来れば毎回の収集量をずっとモニタリングしていくとかも考えている。

委員：生駒市全体とモデル地区の分の比較で考えるわけか。

委員長：両方を見ていかないといけないかと思う。

委員：モデル地区がどこになるか知らないが、ここの分はこれだけの量を回収しましたというようなデータを来年の分を取っていくという話か。

委員長：出来れば毎回計量して常に見える化をしていければと思う。

委員：資料の減量率が13%を一応目標にしているがこの13%の意味が分からない。

事務局：これについては、ごみ半減プランのロードマップの中で25年に有料化するとす

れば13%、24年～25年にかけて有料化したときに減る量、これがごみ半減プランの中で約13%ということがロードマップに出ております。

副市長：これは13%有料化したのと同じだけの効果がついてというのが担保されていてもそれと更に有料化したときに何%減って、更に生ごみあって50%いくつという、そっちから計算しなくてはいけないので、有料化が13%だからそれと同じ分これで出来ればいいって話しにはならない。

委員：努力する分も有料化も合わせて50%減らないといけないということですよ。

委員長：ただ生ごみに関してはもしかするととりあえず分別実験に留まるかもしれないが半分にしたい。

事務局：色んな事を取り組んでいって最終的な目標としては半減50%目標ですが、ある種検証するときに一定の数字はどこかで必要です。この施策したらいくら減るというようなことではなくて全体的な取り組みをしていく中で50%を目指すのでそのような書き方をしたら分かりにくいので、とりあえずひとつの目安として数字を出した

委員：13%モニタリングでいけたらこれは有料化しなくてもいいというふうな感じにとられないか。

副市長：13%はひとつの最低限の目安みたいな意味はあるのかもしれないが、言われる考え方が全く正しいのでやっぱり50%からどういうふうな対策で、勿論生ごみでどうふうな対策でどのくらいいけるかというのは現時点ではなかなかどういう手法でできるとか、どのくらいご協力できるかとかありますし、いくら整備とかコストの話もあるのでなかなか生ごみ何%とか、今の段階で凄く細かい積み上げをするのは確かに凄く難しい。そういうこともあって、ひとつの目安と申し上げててもそれもひとつの考え方ではあるので、それは全く考慮しないというわけでもないのですが、あくまでごみ半減プランに向けたって事ではありますので、今言われた考え方で具体的に目標をどうするかと今後きちんと考えさせていただきますし。

委員：モニタリングをするのはいいが、目標を最初に言ってないと意味がないし、目標が中途半端な適当な試算だと有料化なしに行くとなっても10年後50%は無理でしたとなる。目標ももちろんいるが13%というのもおかしいと思っただけです。

事務局：今日この資料として提示するときに、何らかの最低限の目標というものを何か

出さないといけない、生ごみを分別といっても実際に来年からきちんと出来るのか、仮に家庭から集積所に生ごみを出してそれをきちんと市が引き取ってエコパークで処理を出来るのかといえば設備もない。きちんとした数字は出してないが、最低限この13%以上にならないと半減化はできないという目安ということだけで出した。

委員：モデル地区だけ生ごみも剪定枝も集めるのは可能か。

事務局：その辺もこれから議論をしたいが、受け皿があるのかないのか。

委員：少なくともやっぱり今回有料化を導入のための更なるための検証なので実際にリサイクルするかはともかくやっぱり分別はしてみるべきだと思う。

委員長：目標は、有料化しなくてもこの前段階のこれを達成することで、どちらかというところの13%よりもむしろ50%とか70%とかそういう世界ですが相当凄い数字だと思う。

委員：生ごみ以外で13%抑制して、生ごみ加えたら50%になると解釈している。

委員長：そういう50%です。

委員：今頑張って減り始めている分を基準にするのか、分別前を基準にするのかで全然違うのでどこを基準にするのか。減っている状態から更には難しいので減量分を足してくれるのか。

委員：それは足したらいい。

委員：カサからいうと大きいけれど重さは多分プラごみって生ごみに比べて軽いので、結局生ごみを取らないと全然駄目だと分かってきた。結局生ごみの回収を10年先の生駒市で実施してあげないと50%は絶対無理だと思う。

委員長：生ごみの分別は、一番初めからやらなくて何ヶ月経ってからやり始めてはどうか。

委員：今年環境シンポジウムのとときに羽山町などの方が来られてマンション等にもごみの堆肥化する機械を置いてあげてモデル地区としていたのでそこまでやってあげて現状報告も市民にしてあげないといけないと説明されていた。リアルタイムで伝えるくらいの方が一番いいと思います。全部公開していかないと市民の意識が変わ

りにくいかと思う。報告書の形では全然意味がなく分かりにくい。ホームページの形になるかもしれないが、安いコストで市民の人が等しく見られる環境でやっていくというのもいいと思う。

委員長：多分生駒の人たちの反応を見ていると最近になって有料化を検討していると言われる。それは新聞にでたからで情報送信としては結構大きく出ていき、今だんだん関心高まってきている。モデル地区が始まる時に、リアルタイムで発信していくため、出来れば皆さんに手伝っていただいて、配っているごみ半減ニュースとかも編集とかに入ってもらえたらと思う。

事務局：事務局のほうで何をどういう風な形で分別していくのかはある種地域の中で検討してもらおうということが前程になると考えた。それぞれ地域であまりこれだけ全部してくださいというのはやはりなかなか難しいところもある。

委員：こっちからしてくれではなくて、減量化してくださいから考えてみてくださいでいい。

事務局：その提案をさせていただくのがルールと考えた。今現在全体としてきちんとできるということで、13%はクリアして欲しい。生ごみとか剪定枝もしていただけるのなら13%から上にあがりますといった意味合いでここを入れさせていただいた。

委員：要するにモデル地区ができ、それぞれに減量の方法は違っていいとのこと。

委員長：そこに市の人かこのメンバーが相談に行って、こんなやり方もある、あんなやり方もあるみたいな感じでやっていく。でも、数字の出し方としてはマイナス13%とより半減としたほうがいい。

事務局：今日基準がいるからということで出した。もう一回この会議できちんとした議論をさせてもらいながらも少し骨格を作っていきたい。今日は前案の素案として事務局が思っているのは各4モデル地区でそれぞれということが手法するのか考えてもらうような形でいこうかと、この場で方向性を決めていただいた上でもう少しアドバイスいただきながらこの13%の数字も含めてきちんとしたものをつくりたいと思う。

専門委員：統一仕様としましては、可燃ごみから資源系を除くのですから可燃ごみにスタートのときにいくら入っていたかを掴んでおいて混入率がどれだけ減ったかで統一

仕様として評価したらいいのではないか。

委員：そうですね。

委員：現在の可燃ごみ出している中で、まだ紙ごみで減らせる部分が何%あるという円グラフは市民に広報されていて見ている人も結構多いかと思うが、それはある程度イメージでしかないので、実際にモデル地区になっていただいた方にはその自分のごみは結構いやかも知れないけどその場で開けてみて、ものを認識するところから始めてもいいと思う。

委員：プラごみがこんなに成功したのはモデル地区をしていると情報が一年前から入っていたので、自分たちの時も上手くいったと思う。この半減プランのモデル地区をしてそれが成功するか失敗するかは別としてもその地域だけがとりあえず勉強し、意識を高める。それを広報誌で見て、あそこの地区がモデル地区でやっているらしいと聞くことだけでも違う。準備段階という意味ではこのモデル地区は絶対進めていただくべきだと思って、あまり無理せず出来る範囲で楽しくやれるような方策をこの中でやっていただいたらと思う。是非とも手を挙げてやりたい。急に人間というものには出来ないもので、少しずつ変えられたという作戦に乗っていくのも大事かと思う。モデル地区は是非やってみたらいいのではないかなと思う。

専門委員：4地区の大きさですが、市の方は50~100というのは4地区で50~100というイメージか。

事務局：1地区が50~100。集積所単位である程度っていうことで考えたいので、集積所が3つ4つ5つくらいです。

委員：集めている業者さんとかもある程度呼んでもらえるところで話もする機会もあった方がいい。

事務局：その辺はこの会議で方向性を決めていただければ必ず必要な業者の方には入っていただくとお約束させていただきます。

委員長：今は収集業者とかの方ですけど、今後特に全体の方が発生抑制とかになってくるので、流通関係とかにも徐々に広げていきたい。A4資料の全体会議のところで抜けているのは、地域の応援がありますし、情報発信のところでは是非我々自身が編集者になって関わるという事は必須事項と思う。

委員：もしモデル地区になれるのだったら全体じゃなくその一部分でもやってみたい。自治会の中で最近若い人が引っ越してくる人パターンもあり、地域が一律で高齢化しているわけでもないのでその世代別にどういう風に取り組めるかは分かりませんが、割合に高齢な方とか中間層とか、意識の違いであるとかその出し方の違いとか把握できれば今後生駒市で広報される際に各世代にどのように呼びかけていったらいいということの参考になれるような取り組みができればいいと思う。

委員長：出てくる地区が今後の拡大のところで役立つというのは非常に重要ですのでもしその方向でご調整いただけるのならこっちとしても調査も含めて関わっていく。

委員：ワークショップとかやるとすごくよく分かってくることが多いので、市民の対象にごみ半減のためのワークショップという形でボランティアを生駒市各地区で公募してその方たちが全市発信データになれるくらいの方を集められるくらいの大規模なものを一回でも二回でも構わないので市としてやっていただけないかと思う。

委員：自治連合会さんとか通じて担当の方とか来ていただくなど、始めは強制で来てみたら意外と面白かったということになるかもしれない。

委員：市民がもっているごみに対しての疑問とか私たちの気がついてないこともたくさん出てくると思うので、公募の形とかでもいいし、自治連合会から自治会単位で集めていただいたりして大規模にしたい。

委員長：今ここの答申は方針までですが、ごみ半減推進会議にちょっと愛称とかあった方がいいかと思います。

事務局：お願いしたいのが市としては、今回ごみの件につきましてはやはり市民の方が自分の意思で積極的にこういう風な形で出来るというような形のひとつのモデルとしてどなたかの事例があったらその事例を参考にしてまた他の市民の方にもどんどんPRしていけるのかと思います。今回こちらの勝手な思いですけど、モデル地区として4地区提案させていただいて、ここにも書かせてもらっているように団体で主に活動されている方のほうから2地区、一般公募の方から2地区させていただいて、もし一般公募の中でさせていただいて成功すれば個人の意思でやればこれだけ出来るのだと分かればもっと市民に対してのPRもより出来るのではないかという思いです。宜しくをお願いします。

委員長：今色々な職の人たちの中にも卵はいるかもしれないので、そこを上手く無理やりではなくてやっていくための仕掛けはしてみる。

事務局：それとは別にどなたかがモデルとしてやってもらっているという事例があったら、このような事例が生駒でもありますよということが言えるので、より弾みがついていくのではないかと思う。

委員：個人がPRするのが一番いいと思う。回覧まわしているが見る方が少ない。口コミで近所のおばさんとかに会っても今度こうなったとか言うようなことを増やすことによって正しい出し方が理解できると思う。

専門委員：それがここで書いてある地域ごみ半減会議です。是非自分の地区で引き受けていただきたい。正に自分が伝えないとチラシだけでは伝わりませんが、地域のごみ半減推進会議となる理由です。だから、是非お願いしたい。

委員長：そうです。井戸端会議みたいな形などそれぞれの世代によると思うのですが、若い人には若い人の伝え方があると思います。

専門委員：やはり自分の肉声で伝えるのが大事だと気がついたので、そういう意味で発言者として自分の地区から始めていただきたいとお願いです。

委員：他のグループにも市の方からもっとPRしたら、有効だと思う。

副市長：市としてそれはしっかりやります。

委員：生駒市を代表するような自発的にやりますという地域は、分別意識が高いからそういうところだけではなくて4地区でだいたい男性女性の比率、自宅に住んでいる人、マンションに住んでいる人とか勿論考えられてると思いますけど、生駒市の全体のバランスよくした選定が大事じゃないかなと思う

専門委員：それは来年度からやります。しかし、まずはこの中のメンバーからやってほしい。特にこの委員会に公募しているわけで、客観的にここがいいとかあそこがいいとか言ってもなかなか見つかりませんから、とりあえずの立ち上げとしまして4地区でスタートしたいという意味です。

委員：その立ち上げのやり方だったらかなりレベルが高いような気がします。

専門委員：それならそれでよい。

副市長：4地区は是非委員の方からやっていただきたいと思っている。ただ今言ってもらったのは重要な視点で、例えばマンションとか特色が地区によって違うのでそういうところはどのようにするのとなれば、プラスアルファで行うかもしれない。トライアルとか出来る限りのことはやって、どこまでいけるのかというのは、この公募の委員の方からたくさん出てきたむしろそちらから出てきた意見と理解していますのでぜひそれでどこまでできるかやっていただきたい。それは勿論全部やってくださいということではなく行政も頭を下げ、他の方も含めてやっていくと思う。

委員長：今の地域特性も重要だと思いますので、そこはやっていただけそうな可能性のあるところをしっかりと押さえて整理したほうがいい。

事務局：そういったデータについては市内全域調査させていただいておってこの地区でお願いしますというような形で働きかけはしていきたいと思うが、リーダーとして先に何地区かやっていただければこちらも説得しやすいということがございますので、そういう意味合いはこの中のメンバーの方から4地区できたらお願いしたいと思う。

委員：私は毎回申し上げますけれども、ごみ関係については広報やお知らせが非常に少ない。メンバーの委員の皆さんでも知らないこともたくさんあります。生駒のホームページを見ていて、このごみどうしたらいいのかわからない場合は電話くださいとか書いてあったけど、50音別の一覧もあるので町内会に配るとかで啓発か意識をちょっとずつでも増やしていくことが大切じゃないかと思う。

副市長：トライアルについては何かコメントありますか？

委員：ごみ半減の分で21年のごみがベースになっていますので、かなり減ってきているのを基準にしたらもの凄く減らす率が難しくなると思う。

委員長：もう少し、指標の設定の仕方とかを考えた方がいいってことですね。次お願いしますか。

委員：今自治会の会長、役員はほとんど男の人なので、この分別言う部分に関しては女性の力が大きいと思います。婦人会のワークショップとか婦人を中心としたことが必要と思う。分別するのは奥さんですから。

委員：この委員になるまではごみのことは無知だったが、勉強させてもらって生ごみや剪定枝を堆肥にを使って工夫もしている。自分で処理していくのがマンションは大変だと思う。モデル地区を2月15日に決める期限とこんな早くできるのかと疑問。

事務局：実際に市と話しながら地域へどういうふうアクションを起こしていくのかという形はまだこの半年間ある。

事務局：答申案を作るときに誰も意思表示してくれないのにその方向で書いていいのかどうかということだけです。

委員：私のところは大きな地域で一度にやるっていうのはなかなか難しいが、自治会の方から要請があれば我々も応援させていただきます。

委員：自分とこの自治会の状況はお分かりだと思うのですが、生駒市の自治会の役員等について知っていただきたい。自治会長は確かに男性が多いが、女性の自治会長のパーセンテージ県内では生駒市が一番高い。必ずしも男の人の役員が多いか、女性が多いかっていうのは一定はしてないですので、その辺について公募する際、広げていく際には参考にしていただけたらと思い申し挙げさせてもらった。必ずしも奥さんが分別されているわけではなくて、ご夫婦でご協力されてやっておられるという状況もあるだろうと思いますので、どの年代の方にも、どの性別の方にも分かりやすいような広報の仕方っていうのは必要だろうなと思います。

委員：生駒市はだいたい北部中部南部って感じでかなり家族形態とか住まれている環境が違うし、地域差がかなりあると思う。マンションなのか普通の家なのかっていうところをしっかりと特徴出して、マンションだと意思の統一も図りやすいので、そういうところを必ず一件入れていただきたい。市民の中に人材を作っていくっていうのは非常に大事なことだと思うのでこれは同時進行で進めてスピードアップしてやっけないと間に合わない印象です。

委員：大型のマンションが増えているのでそういうのは入れた方がいいと思う。

委員：マンションは難しくないのか。

委員：単身者の多いマンションは難しいけど、ファミリー向けのマンションを選定して、中に管理組合が作ってあるマンションで管理組合を巻き込んでいくといい。

マンション向けの堆肥を作るような機械をもし出せるなら、マンションの方が取り組みはしやすいと思う。

委員：出前講座等で地道にやったらこの計画はできると思う。

委員長：弱者というか高齢者を含めてですけども、どんな受け皿とかやり方とかを用意するかで随分参加のしやすさが変わるかと思う。

委員：地域にはあまり知り合いがないのでなかなかここでやりますと言えないが、紙面つくったりホームページ作ったりできますので、市民からの情報を上手く取り組んでいけたらいいと思う。

事務局：先ほどの話の中で、モデル地区 4 地区ということで団体のほうで 2 地区と一般の市民公募の中で 2 地区ということで公募の 3 名の中で 2 地区お願いしたいと事務局としては思っている。

委員長：地域バランスもありますし、だいたい今日なんとなく意思表示もありましたので、そこは今後どういうサポートが出来るのかもありますので、事務局の仕事だと思いますのでお願いしたい。事務局サイドから最後コメントありますか。

副市長：本日はどうもありがとうございました。ワークショップから後半につきましても非常に具体的かつ建設的なお話がたくさんできておりまして、私も勉強になりますし心強く思った次第です。委員長も言われたが、単に有料化をいれるのかそれでいいのか。色んな他の検討も必要だというふうなところも色々考えて、モデル地区という方法をとっていくと最終的に結論になった。次回以降答申案になるかと思いますが、引継ぎご議論宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

委員：次回は今日のご意見を受けて、今一度 A 4 の紙を見直しながらそれを答申案という形でまとめた案を出させていただくと思います。それまでにモデル地区の立ち上げ等に関してのご相談に行く方もおられるかも知れませんがそれぞれの条件に応じた話をさせていただけたらと思います。お疲れ様でした。

この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人はこれを署名する。

平成 年 月 日

議事録署名人

議事録署名人